

薄く、手持ち在庫を大幅に減らしたため、市中に

今年1〜5月累計の粗鋼生産量(世界鉄鋼協会

主要国・地域の状況をみると、アジアでは、日

2014年鉄スクラップ扱量は約400万ト、2014年売上高は約1600億円。

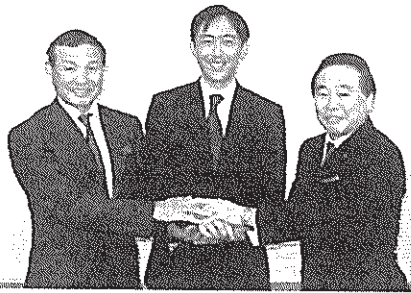
今年度下期の鉄筋出荷に直結すると想定されることから、落ち込みは避けられない、と分析した。

# ニュース・トピックス

■共栄・シマブンコーポレーション・扶和メタルが鉄スクラップ事業で業務提携し供給体制とコスト競争力の強化

大手スクラップディーラーの共栄(本社

社)兵庫県神戸市、郡義信社長)、シマブン



左から黒川社長(扶和メタル)、木谷社長(シマブン)、郡社長(共栄)

から将来への危機感を抱いてきた3社の現状打開に向けた価値観が一致したことにより、今年2月から業務提携契約に向けての話し合いを開始。3社間での業務提携は、各社が保有する経営資源の有効活用によ

り、①顧客満足度の向上②コスト競争力の強化を目的に掲げており、具体的には3社が保有する全国37拠点(うち船積み港22カ所)でのスケールメリットを活かし、品質・納期等で国内電炉・高炉など既存取引先のニーズにより一層と応えられる供給体制の構築を図るとともに、全国に分散する各社拠点を相互活用することで、コスト競争力の強い組織づくりを目指す。

今後、3社は定期的に会議を開催しながら、各ヤード間の有効利用及び国内外での共同販売を皮切りに、3社の強みを融合させた次なるステップを常に模索していき、いかなる外部環境の変化にも耐える仕組みを構築する考えだ。3社合わせ

た2014年鉄スクラップ扱量は約400万ト、2014年売上高は約1600億円。

今年度下期の鉄筋出荷に直結すると想定されることから、落ち込みは避けられない、と分析した。

## ◆ 普通電工・小棒委員会

2015年度の小棒出荷予測は800万ト割れ

普通鋼電炉工業会(会長

野村寛JFE条鋼社長)の小棒委員会は7月13日、2015年度の鉄筋用小形棒鋼の国内需要(国内向出荷量)が、前年度比3・5%(29万541ト)減の791万8955トになるとの予測を発表した。

国内の需要縮小を背景に、2011年度の792万848ト以来、4年ぶりに800万トを割り込む見通し。

算定について同委員会は、建設分野の中で取り分け「RC着工」が低迷しており、足元の推移が

今年度下期の鉄筋出荷に直結すると想定されることから、落ち込みは避けられない、と分析した。

野村会長は今回の予測について「小棒を取り巻く環境は芳しくない。活動水準は上がってきたが、これが続くかどうかが焦点。建築着工が実需に反映される時間が6カ月先として、回復は早くて来年になりそうだ。こうした点を踏まえ、需要見合いの生産を徹底化することが重要だ」とコメントした。

◆ 鉄鉱石スポット価格が急落、45ドルを下回る

鉄鉱石のスポット価格が急落、7月8日付の中国・青島着のFe分62%の鉄鉱石価格は前日比でおよそ5ドル安の1トあたりCFR44ドル強となった。

◆ 国内高炉の7〜9月期の鉄鉱石契約価格は前月比16%安の1トあたりCFR52ドルだった。

◆ 6期連続の値下がり。中国向けスポット価格はその後、CFR50ドル台へ回復したが、価格の低迷が続けば、10〜12月の国内高炉の四半期契約価格はさらに下落することになる。

◆ 国内高炉の7〜9月期の原料炭価格は前期比15%安の1トあたりFOB93ドル。原料炭の契約価格が100ドルを下回るのは、四半期毎の契約となった2010年度以降では初めて。2007年度の年度契約価格(98ドル)以来の安値となった。